



人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。

マタイによる福音書 7章12節

2016年
創立138年

2016年(平成28年)
3月16日
第12号

梅花女子大学

チャペル・ニュース

Chapel News

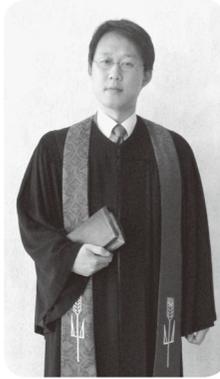
発行

梅花女子大学宗教部
〒567-8578
茨木市宿久庄2-19-5
072-643-6221(代)
072-643-8997
E-mail skb@baika.ac.jp
澤山記念館1階

「チャペル・アワー」よむじゆん

梅花女子大学宗教主事

高田 太



宗教主事として皆さんと歩みを共にすることになりました高田と申します。

わたしは、同志社中学、同志社高校でキリスト教主義の教育を経験してきました。中学校に入ったときにはキリスト者ではなかったし、家族もキリスト教というわけではありませんでした。そんなわたしが、後に洗礼を受け、また牧師となり、そしてこうして皆さんの前に宗教主事として立つております。

わたしが教会に通い洗礼を受けたのは、大学院へ進学したその年でした。どうして洗礼を受けたのかは不思議なことに忘れてしまいました。しかし一つ言えるのは、その時、わたしはキリスト教に深く共感していたわけでもなかったし、聖書を読み通して全てがわかってキリスト教を

選んだのでもなかったということですが、他の宗教と比較をして、キリスト教がすごいからといってそれを選んだのでもありませんでした。

それは出会いのようなものなのだと思います。人は、他の人と比較をし尽くしてその人がよいと思ってお付き合いをしたり結婚するわけではないでしょう。それはどこかで決断で、決断したその後から関係が生まれてくるものです。わたしのキリスト教との出会いは、同志社という学校を通じて与えられてきたものでしたが、もちろん、そんな経験の中でどこかで礼拝やキリスト教がよいものだと思うことがなければ、そんな決断はしなかったでしょう。

そうしてみれば、既に同じようにキリスト教と出会った多くの人が、祈り、努力し、学校の中に礼拝の場を設け続けて来ておられました。人は自分の経験からしか行為できません。自分にとってそういう経験を与えられてきたのは人生にとって大きな意義あるものだった、そう思うから、そうした人びとは礼拝の場を守るために努力しておられるのだと思います。しかし、誰かが自分にとつ

てよいと思うものを押しつけられるのは時に不愉快なことでもありますが、これに反発を覚えるということもあるかもしれません。

そこで皆さんは聖書の言葉を聴くのです。「だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である。」

人にしてもらいたいと思うことを人にするのは愛の行為です。愛は積極的な働きかけです。対して、人にしてもらいたくないことは人にするなど否定の形にすれば、尊敬の表現になります。自分がいいと思うことを、他人もそうしてもらったら嬉しいだろうと思ってしまうことには、どこか自己満足が含まれているような気がします。価値観の押しつけと、いいってもいいかもしれません。もしそんなふうに価値観を押しつけられるのが困るといふなら、そして、これを人にしてもらいたくないことは人にするなどという尊敬の表現に当てはめるなら、他人に自分の価値観を押しつけるべきでない、となります。

倫理学の用語で、完全義務と不完全義務というのがあります。完全義務というのはしてあたりまえのこと、それをしなかったら非難されるようなことです。殺すな、盗むな、姦淫するな、モーセの十戒にも含まれるこうした事柄は完全義務です。これは尊敬から出てくる事柄です。他者

を尊敬するならば、これをもののように扱ったり、自分の道具にしたり、そんなふうに見て殺したり盗んだり姦淫したりすることはない。これに對して、誰かに施しをする、親切にするといった事柄、愛の事柄は不完全義務です。それをするとはよいことかもしれないが、しかし、しないからといって非難されることでもありません。それが愛です。だから、愛には尊敬が先行します。尊敬を欠いた愛は自己満足です。

宗教的熱狂は、時に尊敬を欠いた愛に人を動かすことがあります。どうしても救われないこの悪人を殺して魂を救ってあげようというような理屈で、昔、オウム真理教という宗教は人を殺しました。未開の人びとがあまりに愚かに見えるから、キリスト教を伝えて、文明化して幸せにしてあげようとして、キリスト教の宣教師達が植民地政策の先鋒を担ったこともありました。いずれも自己満足から生じる愛が、尊敬を蔑ろにした極端な例です。

しかし、どんな愛にも言えることです。愛は自己満足に陥るリスクと尊敬を蔑ろにするリスクをいつも含んでいます。親が子のことを思い、子の自由を制限することがあります。愛から出ている行為が、しかし子どもの側から見れば押しつけに見える、そういうことは皆さん何度も経験してこられたでしょう。

尊敬と愛のこの関係をどう考えたらいでしょうか？ 不完全義務である愛には、完全義務である尊敬が先行しなくてはなりません。これはどうしてもひっくり返せない。そう考えるならば、真に尊敬を保とうとすれば、愛ができなくなっていくと思います。他者をそのまま受け入れるという事は、突き詰めればその人に関わらないということでしょう。

そうして人は偉大なる傍観者になるのです。他者と関わることなしにただ世界を眺める。人の愛の行いを批評する。自分に対する愛の視線を拒む。この立場は、ある種の精神の高みに存在するのでしょうか、その高みに上り詰めてそこに留まるならば、人は他者への尊敬を損なうという罪を犯したくないというところに、つまり結局は、逆説的に自己完結的な自己満足に陥ってしまいます。

これに對して、イエスは人を愛せと語りました。これが律法と預言者だと語りました。律法とはイエスにとつても第一にモーセの十戒だったはずです。しかし、イエスはそれを超えて愛こそが律法だと語りました。

なぜそんな愛が可能になるのか。——親子の関係がそうであるように、信頼の関係があるところでこそ愛が成り立つというのは、この問題を考えるための一つのヒントになるかもしれません。相手が自分を尊敬してくれているという信頼があれば、その相手がリスクを冒して愛を注いでくれているということ、たとえその時は押しつけに見えたとしても、それとしてその愛を受け入れることができるようになると思います。

お金をなくて困っている人にお金をあげることを考えてくれたらいいでしょう。相手はそれで自分が馬鹿にされていると思うかも知れないし、そのことで貧乏で惨めなことを思い知らされて苦しむかもしれません。しかし、この場合でも信頼関係があるならば、そしてお金のあげ方が押しつけがましくなくスマートでエレガントなものであったならば、きっとそこで愛を示すことができるのだと思います。

そうであるから、わたし達は皆さんにチャペル・アワーという礼拝の場を与えようと思います。梅花女子大学は皆さんを愛しているからです。だから皆さんはそうした大学を信頼して欲しいと思います。

キリスト教主義の大学が設けるこの礼拝という場から何を学び取るかは皆さん次第だと思えますし、それはわたし達が決めることではありません。キリスト教の言葉で言うならば、それは神の仕事です。しかしその神が仕事をなさる場所を皆さんに提供することは、キリスト教主義を教育理念に掲げるこの大学が真剣に取り組まなくてはならない仕事であるし、これをやめてしまったら、この梅花女子大学を選んだ皆さんに對しての裏切りになるでしょう。そして勿論のこと、創立者澤山保羅先生や、同じく創立者である梅本町教会、浪花教会、天満教会の思いや祈りに背くことにもなりません。

わたし達は愛によってこの場を皆さんに与えます。その愛が心地よいものであるために努力します。尊敬を蔑ろにしないように努力します。ですから、皆さんはそうした愛を信頼して、この場に出席してください。この関係こそが「愛なる女学校」に相応しいと思います。そして、そういう関係の中で、皆さんにも愛するということについて学んで頂きたいと思っています。

何度も申し上げたとおり、愛は難しいものです。愛には技術があるし熟練がいる。そういう努力がなければ、愛は自己満足になるし、他者への尊敬を蔑ろにしてしまう。これはつまり、誰かをエレガントに愛するためにはチャレンジがいるということです。チャレンジ&エレガンスという標語は、間違いなく「愛なる女学校」の精神を表しています。そうであれば、このチャペル・アワーの営みをエレガントになり立たせて行くことができるように、わたし達と一緒に、チャレンジして行って下さればと願っています



「死から命へ」

梅花女子大学日本文化創造学科

教授 米川明彦



クリスマス喜び

クリスマスの思い出は楽しい。神

を信じる者も信じない者もおかまひなしに世界中の人々がお祝いをしています。神はクリスマスとき、世界をペテンにかけたとユーモアを交えて話す人もいます。それほど楽しく温かいものを感じる。毎日がクリスマスであつたらいいのになあと思つたかもしれない。

一方で、今、喜びがない人、悲しんでいる人、恐れがある人、孤独の人、病気の、貧しい人、弱っている人がいます。すべての人に大きな喜びと希望をもたらすクリスマスメッセージを受け取ってほしい。今年の標語「心を開こうクリスマス」のように。

説教の前に質問します。クリスマ

スにプレゼント交換をするのはなぜか。またクリスマスツリーを飾るのはなぜか。キャンドルサービスをするのはなぜか。クリスマスカラーは赤と緑なのはなぜか。これらはイエスの誕生の出来事だけでは説明がつかない。これは今からお話しするイエスの誕生と十字架の死とに密接な関係があります。

イエスの誕生 ルカ2章1節～7節

全領土の住民に、登録をせよとの勅令が皇帝アウグストゥスから出た。アウグストゥスは初代ローマ皇帝（BC 27～AD 14年在位）。彼は「全世界の救い主」と称され、人々から「アウグストゥスの平和」と言われた。本名はオクタヴィアヌス。彼の死後、元老院から贈られた称号がアウグストゥス（尊敬されるべき者）で、神に祭り上げられ、皇帝礼拝の起源となりました。

住民登録は人口調査で、徴税や徴兵や労役のために行われ、皇帝の権力を象徴しました。

ベツレヘムは当時人口900人く

らいの村。ベツレヘムからダビデ王の血筋を引くメシアが出ると思われていました。ナザレはベツレヘムの北、約170キロの所にあります。

7節「初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。」とあります。飼い葉桶は石製の物。家畜小屋に生まれたことがわかる。それは洞窟でした。普通は男子が生まれれば賑やかな音楽が奏でられて、お祝いされますが、イエスは貧しい者として、誰からも顧みられない小さな者として、ナザレの実家ではなく、旅の途上で、不安と孤独のうちに生まれました。

天使の告知 8節～12節

8節「その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。」

クリスマスは闇夜の出来事です。そこに「まことの光」であるイエスが生まれました。キャンドルライトサービスというろうそくをつけて礼拝するのはろうそくの光でイエスを象徴したものです。

羊飼いは当時、野宿をして獣と一緒に生活する汚れた者などの理由から軽蔑され、罪人の扱いでした。しかし、最初に救い主の知らせが神から告げられたのはこの羊飼いでした。

人は子どもが誕生したとき、だれに最初に知らせるでしょうか。もつとも大切な家族です。神は羊飼いを選んだのです。神はもつとも軽蔑された、小さい者、苦しむ者、病む者、貧しい者に近くにきて下さる。神はひとりひとりのそばに立つために貧しくなられました。

10節「民全体」とはイスラエルだけではなく、すべての民を指します。この喜びが届かない所はありません。悲しみにある者はだれよりもクリスマス最大の喜びの知らせにふさわしい者です。

11節「救い主」はここではイエスを指す。皇帝アウグストゥスが「全世界の救い主」と称されたことに對して、天使はイエスが真の救い主であり、その救い主が到来したと告げる。11節「この方こそ主メシアである」の「メシア」は「救い主」の意。将来、十字架につき、死に、復活してすべての人にいのちを与えて救う神として生まれたということ。救い主の誕生の12節「しるし」は人の目には全くつまらない「布にくるんで飼い葉桶に寝かせた」ことでした。メシアがもつとも低い所に下つて貧しくなられて来られたのです。神は苦しむ人たちのために小さな者となられました。皇帝の宮殿で生まれたのではない。

誕生の時に十字架の死が前提とされていたのでした。言い換えればイエスは十字架で死ぬために生まれました。十字架は罪の罰ですが、イエスは死刑になるような罪を犯したのか。いいえ、私たち人間の罪を身代わりに背負って十字架にかかってくださったのです。十字架で「父よ。彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです。」と祈られた。自分を十字架につけた人々の罪の赦しを祈ってくださいなのです。だからクリスマスカラーの赤は十字架の血を意味します。

聖徒となつた悪徒 石井藤吉

明治時代から大正時代にかけてさまざまな罪を犯し、最後は殺人罪で死刑になった石井藤吉がいました。ここに彼が書いた『聖徒となれる悪徒』(1918年)があります。出版されたのは死後です。彼は殺人で死刑の判決を受け、刑務所で過ごしていたある日、カナダの女性宣教師から聖書の差し入れがあった。彼は暇だったので聖書を読んでいたところ、ルカの福音書の「父よ。彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです。」を読んで、一瞬にして、イエスを信じたと言います。その時のことを次のように書いています。「私は此の一節の誠に僅かのお

言葉に私の心には五寸釘が打たれるよりも尚強く浸みこみました。」こんな罪人のために罪の赦しを願ってください、身代わりにご自身の命を捨ててください。これは人間にはできない。救い主、神の子以外にできないと確信したのです。1918年8月死刑に処せられたとき詠んだ辞世の歌「名は汚し此の身は獄にはてるとも心はきよめ今日は都へ」はイエスが十字架で、同じ十字架刑に処せられていた強盗に向かつて「きょう、あなたはわたしとともにパラダイスにいます」と言ったことばに基づいています。

ここにもっとも小さい者、苦しむ者、病む者、貧しい者である彼に神は近くに来て下さいました。そして、彼に救い主の知らせを聞かせ、祝福して下さった。そして彼は死から命に移っていききました。

天の軍勢の賛美 13節〜14節

天の軍勢が現れて、神を讚美して言いました。14節「地には平和、御心に適う人にあれ」の「平和」とは何でしょうか。「平和」は聖書のキーワードです。神とともにある祝福のことです。「神との平和」は罪の赦しを受け、神の子となる祝福です。「人々との平和」は人を赦し、愛する者となる祝福です。「人生との平

和」は絶望から希望へ移された祝福です。「死との平和」は死が終わりではなく恐怖でもない、永遠の命に移された祝福です。

イエスは罪と死を表す闇に「命」を表す光を与える。それも「永遠の命」です。クリスマスツリーが常緑樹であるのは緑で「永遠の命」を表します。

14節「御心に適う人」とはだれでしょうか。そんな資格がある人が問題ではなく、そんな資格を無視して神のほうで私たちをみこころにかなう者にして下さる。だから受け取ればいい。

これからも生きる

一人のクリスマスチャンを紹介しよう。押野孝君(36歳)は舌がんでした。末期の段階で孝君のお姉さんが福岡から茨木に引き取りに来ました。

2009年12月の下旬のことでした。それから約2週間後の12月24日の夕方、電話が福岡のお姉さんからかかってきました。「孝が先生に会いたいと言っています」。電話先で孝君に代わってもらった。彼はもう話すことができませんでした。電話で折って「今から会いに行く」と言いました。私は大学から帰ったばかりでしたが、すぐ新幹線で福岡に行きました。タクシーに乗って病院に着いたのは夜

の10時。しかし、なんと彼はここにいなかった。亡くなって運び出されたと言うではありませんか。亡くなるとは思っていなかった私はショックで一瞬声が出ませんでした。行き先が告げられ、またタクシーに乗って行った所は葬儀会館でした。そこに孝君が寝かされていました。お姉さんの話によると、電話が終わって5分後に息を引き取ったと言う。死ぬ間際にノートに孝君が書いたものを見せてくれました。「米川先生に会いたい。これからも生きると伝えて」。彼はイエスを信じていました。肉体は死んでも、すでに新しい命、神の命、永遠の命を与えられていたので、「これからも生きる」と言えたのでした。彼は死から命に移っていききました。これがクリスマススイブに起きた出来事です。

神はイエス・キリストをこの世に送り、私たちを救おうとしました。イエスこそクリスマス最高の愛のプレゼントなのです。クリスマスにプレゼントを贈るのはここに起源があります。プレゼントはただ受け取ればいい。あなたも心を開いてイエスを受け入れませんか。

ヨハネ3章16節「神はその独り子をお与えになったほどに世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」

「M37 PHOTOGRAPHY」

梅花女子大学就職部長・
学生支援グループマネージャー 西原 肇



長州出身だったある一人の青年、澤山保羅が明治維新を通して西洋文明に触れ、外国の文化を勉強するためにアメリカに留学し、キリスト教と関わる中で日本や世界を良くするためににはどうしたらいいのかを考えました。考え抜いた結果たどりついた答えが日本に女子教育を行う学校を創ることでした。「世の中を変え急所は女性にあり」と確信したのだと思います。当時の世の中は文明開化の時代とはいえまだまだ封建的な世の中でいわゆる男尊女卑の世の中で女性は男性に比べて格段に差別された世の中で、その時代に「女子教育の学校を創る」というようなことは言語道断、そのようなことを言ったらおそらく「何を馬鹿げたこ

とを」とか「変わったことを言うやつ」と言われて批判の対象になり、非常に浮世離れた存在になっていたのではないかと想像されます。言い方を変えれば澤山の仕掛けは無茶な戦争だったのかもしれない。相手はとてつもなく大きな日本の世の中です。思い込みは場合によつてすごいパワーを発揮するものなのかもしれません。あくまでも想像ですが、澤山は非常に物事を突き詰めて考える人で稀にみる戦略家であったのではないかとも思います。皆さんは「キリスト教」の授業や礼拝で勉強されたかもしれませんが、明治11年に梅花女学校が開学された時に、梅花女学校の教員で後に東京で日本女子大学を開設した成瀬仁蔵が「開校を祝す」という書簡を残しています。そしてその中で非常にわかりやすくなぜ梅花女学校を創るのかその理由を書いています。すごくシンプルに言うと、男の子であっても女の子であっても子供は女性から生まれます。当時子供を育て

るのは母親の役目でした。いい女性（愛なる女性）に育てられれば男の子であっても女の子であってもいい大人（愛なる大人）に育っていきま

す。世の中は大人が作るわけですからいい大人で溢れば世の中は絶対に良くなるはずですが。だから最初にしないといけないことはいい女性、キリスト教でいうところの「愛なる女性」を生み出すこと。そのために愛なる女学校として梅花女学校を創ったとあります。「世の中を変えるのは女性だ！」という発想と実行は現代でいうところのまさしく「イノベーション」(新たな価値の創造)、革新でした。

そのころ時を同じくして同志社、同志社女子、立教、関西学院、神戸女学院などのキリスト教主義の学校ができましたが梅花以外の学校は全てミッションスクールでした。これらの学校はキリスト教の布教を目的にアメリカのキリスト教の団体からの寄付を受けて開設されました。これらの学校と決定的に一線を隔して梅花の違うところ、というかすごいところは、あえて寄付を受けずに自ら苦労をして、自らの力で、澤山の「女性が世の中を変える」という哲学のもと、日本人が日本人の手でオリジナルな学校を創ったことです。



1904(明治37)年 梅花女学校卒業記念写真

この写真は明治37年の梅花女学校の卒業写真です。どうでしょうか？すごいと思いませんか？この写真と和装の専門家に見てもらいました。明治37年の撮影ですが専門家に聞くと「あり得ない」写真だそうです。何点か紹介させていただきます。

①袴の羽織(柄物)

当時では通常卒業式などの正装の場合には上に着る羽織は黒か緑系の色で、柄物をはおることはタブーであったようです。おしゃれを謳歌していたのだと思います。

②外国人教員

今でこそネイティブスピーカーはどの学校にもいますが、当時は革新的なことでありました。しかも何人もいます。梅花の学生たちはこの外国人の先生から英語を通してさま

さまざまな外国の文化を学んでいました。

③ 髪飾り(花)

髪に花飾りをする習慣は当時日本にはありません。これもすごくおしゃれだと思いませんか？

④ 靴

袴の下は女性の場合は草履履きが常識です。明治の時代に靴を履く習慣自体なかったようです。当時の周りの人たちはきつとすくびっくりしていたと思います。

⑤ ブーケ(花束)

送別や謝辞を表すためにブーケ(花束)を贈る風習が広まったのは第二次世界大戦後からだそうです。これが極めつけになります。

⑥ LOVE

これこそまさに「愛なる女性」の愛です。キリスト教の愛の精神。梅花のルーツです。さりげにおしゃれだと思いませんか。日本ではこの「LOVE」という概念は第二次世界大戦が終わるまで存在しませんでした。この「LOVE」という言葉は個人を大切にするという考え方がベースになっていますが日本では「国のため」「家のため」という考え方が主流であったためむしろ排斥され理解もされなかった概念です。そんな時代に胸を張って「LOVE」を標榜して卒業していく梅花の学生

たち。すごいことだと思います。なんかみんな自信たっぷり顔を見せているように見えます。この卒業写真には梅花が明治時代にやらかしたといった語弊がありますがイノベーションがいっぱい詰まっています。皆さんは澤山先生の愛唱聖句をご存じだと思いますがここに写っている人たちが「人にしてほしい」と願ったことは何だったのでしょうか。「もつと女性に自由を」「もつと思いのままに生きさせて」「女性にも教養を身につける機会を」「愛に満ちた平和な世の中に」「男も女も平等に」というようなことだったのではないのでしょうか。このような考え方は今では当たり前ですが当時は異端者に見られていたのではないかと思います。そんな時代の中で梅花の学生たちは澤山先生の愛唱聖句を胸に自分たちがしてほしいと思うことを「愛なる女性」として実践してきたのだと思います。ご存じのとおり梅花のスクール・モットーは澤山保羅が聖書の中でも最も大切にしていた言葉で聖書の中でも黄金律と言われています。「DO」で始まりますが「DO」は強調であり命令です。つまりスクール・モットーは神様の命令です。「しまししょう」とか「やつたらどうでしょう」のレベルでは

なく「しなさい」「やれ」です。聖書の中にこんなに強い命令の言葉は他にありません。梅花の先生や学生たちはまさにこの言葉を胸にイノベーションを起こした人たちだったのではないかと思えます。昔は新しい学問体系なんて全くなかった時代で、外国の文化や歴史を学ぶには英語を勉強する以外に方法はありませんでした。英語を学ぶことで外国の文化を知り、国文学を学ぶことで日本の文化や歴史を知り、キリスト教を学ぶことで今までは全く異なった人間観を学んでいました。全てが未知の世界で日本初の試みでした。この梅花のチャレンジ精神は現代の梅花女子大学にも脈々と受け継がれ、現在でも食文化学科や口腔保健学科など日本で初めての学科が次々に生まれています。また豪華な一流ホテルで行われる新人生歓迎レセプションや大学祭で行われるフアッションショー、もうすぐ実施されます浴衣祭りなどもそうです。またカリキュラムも「梅花セミナー」や「アンカーゼミ」、課外になりますが「就活ゼミ」など他の大学にはないものがあります。来年には日本で初めての「チャレンジ科目」や「エレガンス科目」ができるほか、日本の大学初の「歌劇団」をかかえる予定です。

ちなみに宝塚歌劇団のタカラジェンヌは梅花から100人以上輩出しています。他にも「アイデアの日」や「おしゃれの日」を作っている大学は梅花だけです。こういった先駆けとなる斬新な取り組みは今に始まったものではなく写真にあるように明治の時代から受け継がれています。今、梅花の標語になっている「チャレンジ&エレガンス」は実は137年前から続いているのです。チャリーディング部は「元氣」「勇氣」「笑顔」をモットーとし、人に元氣になってももらいたい、勇気をもってもらいたい、笑顔になってもらいたいから毎日頑張って過酷な練習をしています。まさに梅花のスクール・モットーの現代の実践者です。次はあなたがたの順番です。実は皆さんがそれぞれの中で起こすイノベーションこそが就職活動をするときの最大の武器になります。就職必勝法になります。会社は人が命です。生き残りをかけてガチで頑張っています。だから物事に本気でガチに当たれる人を探しています。何かの絆で集まったこの梅花の中でぜひ一人ひとりのイノベーションを起こしていただければと思っています。



「私家版 集め話 真理の証」

梅花女子大学教務部職員 佐藤 昇



(7) 私が梅花学園に入職したのは、澤山記念館が竣工しました年、1988年でした。最初に配属された学園資料室では、女性の課長と女性の先輩職員が『梅花学園110年史』という分厚い年史を作成するためにしめきりに追われていました。この『梅花学園110年史』等、梅花学園の歴史資料に關します書籍は図書館の2階に書棚が設けられていますので、ぜひご覧になってみてください。私の最初の上司である遠藤トモ課長は、図書館課長や短大事務長を歴任された方で、バリバリのキャリアウーマン、皆さんの大先輩です。遠藤課長は梅花女子専門学校を卒業されたから民間企業に勤務されていたのですが、当時の実生すぎ

学園長より梅花学園に奉職するよう勧められました。実生すぎ学園長は明治期に梅花女学校を卒業され、苦学してアメリカに留学し神戸女学院大学で教鞭をとられた後、梅花学園の学園長に就任され、戦後間もなく火災により校舎の大半を失った学園の復興に尽力されました。キャリアウーマンのはしりといえる方です。『これも一生』という自伝を出版されています。そして、それも図書館の2階に置いてありますので、一度手にとってみてください。実生先生のサイン入りの本が置いてあります。遠藤課長は梅花女子大学の設立にも奔走されました。当時は新幹線が開通しておりませんでしたので、文部省に分厚い書類を届けるためには急行列車に乗って何時間もかけて行かなければなりませんでした。そのような苦労話も聞かせていただきました。私が入職当時は田中とらさんがまだお元気でした。この茨木ガーデンキャンパスの土地は田中格太郎さん、

とらさんご夫妻が学園に献納してくださったものです。田中とらさんは澤山記念館にもよく足をお運びで、何度か声をかけていただき、私が豊中学舎へ異動になります際は現在の宗教部の部屋で送別会を開いてくださったりました。田中とらさんよりお教えいただいたことの中で深く印象に残っておりますのは「私たちが導いてくださる、大いなる力の存在を感じることに」その力の前では私たちの力は小さいものであることを悟ること」「自分たちの力の小ささを悟れば、祈りの心を持ちうること」です。田中とらさんが祈りを奉げておられる姿を何度か拝見しましたが、祈りの人であった澤山保羅の姿をも垣間見たような気がいたしました。次は元宗教主事の石川富士夫教授の思い出です。昔は長年勤務された教職員の方が退職されることがありますと、教員も事務職員も集まって送別会が開かれたものでした。ある日の宴席で、石川先生が私の前に座られました。石川先生からも色々とお話いただきましたが、その中で興味深いものには「科学を追求すれば、より神の存在に近づく」というものがありました。一例として「DNAの研究」があります。

村上和雄筑波大名誉教授は、次のような趣旨のことを述べられています。「遺伝子という微細な空間に膨大なデータ量の遺伝情報を書き込まれ、正確に働いている事実を知ると、全ての生命の親のような、偉大な存在を感じないではいられません。これだけ科学が発達しても、私たちは細胞一つ、ゼロから作ることはできないのです。生命を大自然からの贈り物、ないしは借り物ととらえ、感謝の気持ちを抱くべきです。そうすれば自然によい遺伝子のスイッチが入り、人生もおのずとプラスに転じてくるでしょう」。

次のお話に移ります。澤山先生の死後に出版されました遺稿集に『雑算實話真理乃證』という本があります。その中で私のお気に入りの話を一つ紹介します。イギリスのある町に出自のはっきりとしない若者が住み着きます。町の有力者の娘が突然この若者と結婚したいと言いますが、父親は大反対です。しかしこの娘はこう答えました「確かにこの方はどこから来たのかは分かりませんが、しかし私は、この方がどこへ行こうとしているのかが分かりません」。「二人は結婚し、若者はキリスト教の牧師となって、大きな働きを

なした、というものです。さて、皆さんは「自分がどこへ行くこうとして
いる人間なのか」が分かっています
か？私が就職部におりましたころは
大学3年生になれば「就職サイト」
への登録が始まりました。全く就職
活動をしていない時間は最初の2年
間しかありません。ある先生は「英
語でいう「ワーカー」と「レイバラー」
のニュアンスの違い」について教え
てくれました。「ワーカー」は「労働」
を意味しまして、語尾に「er」がつ
きますと「労働者」となります。「レ
イバラー」も「労働」を意味し、語尾
に「er」がつきますと同じ「労働者」
となります。しかし「ワーカー」は
「自分のやりたいことを仕事にでき
た人」、「レイバラー」には「自分の
やりたくない仕事だけれど、生活の
ために仕方なくやらざるを得ない人」
というニュアンスの違いがあるとい
うのです。スマートフォンで有名な
アップル社を起業しましたステイー
ヴ・ジョブズは若い頃から「今日が
人生最後の日なら、今日やること
になっていることは、自分がやりたい
ことなのか」と毎朝自問していたと
いいます。また「心の内なる声に耳
を傾け、本当に生きたい人生とは何
であるかを知っている直感に従おう」

とも言っています。皆さんも自分の
内なる声に耳を傾け、「ワーカー」
になれるよう、貴重な大学生活を充
実させてください。

さて今年には「戦後70年」というこ
とで夏にはテレビでたくさん戦争
に関する番組が放送されました。N
HKのドキュメンタリーで、イラク
戦争下を生きたある家族を描いた話
が放映されていました。アメリカ軍
の空爆で3人の子どもが亡くなりま
す。そして最後には父親までがテロ
で亡くなります。アメリカ軍が去っ
た後のイラクではテロが横行し、父
親は巻き込まれて銃撃されたのです。
この父親がドキュメンタリーの最後
に語った言葉は「一体この世のどこ
に恵みがあるというんだ？」という
ものでした。神様が存在するなら、
どうして地上には悲惨な戦争や災害
が絶えないのか？この問いにはキリ
スト教学校の学長や校長ですら、自
分自身の言葉で答えるのは困難です。
やっとできることは聖書の御言葉を
引用することです。本日の聖書朗読
で旧約聖書のヨブ記を取り上げてい
ただきましたのは、梅花というキリ
スト教学校で人生が大きな苦難の連
続であった方、澤山保羅と田中格太
郎・とら夫妻が自らの人生を振り返

る時、ヨブ記を引用されて答えられ
たことによります。澤山保羅は生ま
れたばかりの娘を失い、妻を結核で
亡くし、自分自身も結核により34歳
で世を去ります。不幸を嘆く周囲の
人々に対し、澤山先生は次のように
答えられています。「主、与え、主、
とりたもう。主の御名はほむべきか
な。我は母の胎内より裸にて出づれ
ば、また、裸にて行くなり」私に降
りかかった数々の苦難は、ますます
もって昨日も今日も永遠に変わらざ
る、主イエス・キリストに私を近づ
けてくれました。感謝の他ありませ
ん」。田中格太郎さんの和歌が記さ
れた記念碑が乙女坂を昇る左側にあ
りますが、その和歌には続きがあり
ます。「七十路のたびはヨブ記のか
たちなりくるしみのうちめぐみあふ
れて」以下は日本文化創造学科元教
授、大田正紀先生の説明「振りかえ
れば私たちの生涯もまた旧約聖書の
ヨブ記そのものだった。確かに子ど
もの死、戦争、貧窮など次々苦難が
降りかかった。しかし、その苦難も
また恵であった、御心になかった悲
しみであったと、ヨブに倣って証し
よう。あなたは真実なことで、必要
な助けを常に差し伸べてくださった」。

澤山先生が病床で苦しむ妻のために
作詞した讃美歌がパネルになって澤
山記念館の資料展示ホールにかかげ
られています。詞の最後の方にはこ
うあります。「今、我があえる苦し
みは、君まず経てぞ導きぬ」神の御
国に入る者は、この道を皆、過ぐる
なり「原文はカタカナ」。梅花とい
うキリスト教学校に集う我々は、これ
らの言葉の中にひとつの答えを見い
出すことができます。これは私の勝
手な考えなのですが、この世で大き
な苦難を経験して、天に宝を積んで
召された方がいると、次にはDNA
の眠っている部分のスイッチがオン
になり、その困難を克服することが
できる新しい命が生まれてくるので
はないか？あるいはDNAそのもの
に変化が起こって、災難を乗り越え
られる知恵を持った新しい命が生ま
れてくるのではないかと思います。
私の勝手な発想ですので、皆さんぜ
ひクリスチャンの先生をつかまえて、
いろいろと質問をしてください。そ
して自分なりの考えを持ってくださ
い。戦後70年経ちましても地上には
戦火が絶えません。どうか人類が最
後には正しい道を選び取り、御国の
平安を地上にもたらすことができま
すよう、お祈りいたしました。私の
話を終わらせていただきます。

クリスマス・ツリー点灯式

2015年11月26日(木)

澤山記念館正面玄関南側ヒマラヤ杉の下



学園クリスマス標語

—2015年度 クリスマス標語—

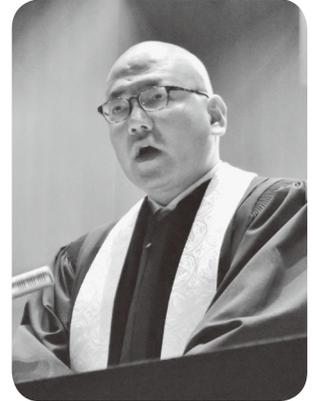
「心を開こうクリスマス」



クリスマス礼拝

2015年12月14日(月)

澤山記念館2階 講堂



クリスマスイブニング2015

「クリスマス礼拝」

2015年12月19日(土)

澤山記念館1階 チャペル



(知能に重い障がいを持つ方々の施設)

「止揚学園を訪問して」

こども学科1年生 森岡 由稀

8月20日木曜日、滋賀県能登川にある止揚学園へ訪問させていただきました。カラフルな外観には似合わない暖かな木造の建物は床も窓もピカピカで、お話を聞くと毎日利用者の方達が掃除をされているそうです。利用者の方達が寝食を行っている建物では偶然その時間洗濯物を畳んでいた職員の方からお話を伺うことが出来ました。「自分が嫌な顔をして洗濯物を畳んでいたらこの服を着る人にもその気持ち伝わってしまうから、いつも笑顔で、楽しい気持ちで洗濯物を畳む様にしているんですよ」。そう言った職員さんは言葉の通りニコニコと笑いながら丁寧に洗濯物を畳んでいらっしやいました。



その後、案内されたのは「働く家」という利用者の方達が貼り絵やお菓子作りなどを行う建物でした。そこには色鮮やかな貼り絵やタイル画が並んでいて、そこで案内をしてくださった職員さんがこんなことをおっしゃいました。「ここでは貼り絵を作る人もいれば、その貼り絵を貼ったところから剥がして行ってしま

う人もいれば、何もせず見ている人もいますよ。けれど全員がそれぞれを自分の仕事だと思っていて、誇りを持っているから私達は何も言わないですよ」。職員の方達から聞けたお話は、職員の方はそれが当たり前で簡単なことの様に話されていましたが、きっと簡単なことではないと思います。洗濯物を畳むのが憂鬱な時だってあるだろうし、せっかく作っている作品の制作の邪魔をしていたら止めるのが普通です。けれどそんな「普通」に囚われずいつも利用者の方達のことを思いやっているから、止揚学園で出会った利用者の方達は毎日掃除している床や窓よりもピカピカの笑顔で私達を迎えてくれたのだと思います。

小梅祭 学生礼拝

「チャレンジするじよは生きるじよ」

情報メディア学科2年生 金山^{かなやま} 紗耶



皆さんは生きること、死なないでいることの違いは何だと思えますか？私はこの問いの答えを高校生ときある本の中で見つけました。その本のタイトルは「死なないでいること、生きるということ 希少難病 遠位型ミオパチーとともに」です。簡単に内容を説明させていただきますと、作者の中岡亜紀さんが25歳の若さで筋力が低下してしまう病気、遠位型ミオパチーになってからの人生につ

いて書かれています。この病気は命には別状はありませんが、筋力低下のため歩行が困難になり、車いす生活が余儀なくされます。車いす生活になるとできることは限られてきてしまうように感じるでしょう。ですが中岡さんは病気になる前から二度富士山登頂に挑戦し、一度成功させました。また、遠位型ミオパチーの患者会と特定非営利法人希少難病患者支援事務局を発足、株式会社Free×FREE project(フリーバイフリープロジェクト)を設立し、代表取締役として日本にはまだまだ少ないヨーロッパや北欧から福祉用品を輸入する仕事を始められました。もちろん1人ではできませんので多くの人の協力を受けて行っています。だとしてもすごい行動力だと思いますか？この行動力には彼女の考え方に答えがありました。そして私が見つけた最初の問いの答えでした。その考え方は「生きることは挑戦し続けること、挑戦をやめたらそれは死んでいるのと同じこと」という考え方です。挑戦し続けている中岡

さんだからこそ見つけられた答えだ
 と思うと同時に自分は今まで死んで
 いたのではないかと不安になり、生
 きている人生を送りたいと思いまし
 た。本を読み終わってから自分の行
 動力は変わりました。「変わった」
 というよりは「変えた」という方が
 正しいのかもしれませんが。私は英語
 が大の苦手な英語なんて日本で生き
 ていればできなくても大丈夫！と
 思っていました。しかし、これは逃
 げてゐると、挑戦してみる価値はあ
 るなど考え直し、英語の勉強を始め
 ました。ちょうど英検もあつたので
 2級を受けてみました。一度目は落
 ちました。もう悔しくてたまりませ
 んでした。大嫌いなものを頑張った
 のになんでよ！かと思いました。し
 かしここで諦めたら負けだなと思
 い、二度目を受け、合格点ギリギリ
 の点数で合格することができました。
 何度もやめようと思ったことは
 ありません。筆記の勉強中に何回も教
 材を壁に投げつけましたし、面接の
 練習は完全下校時間を過ぎてやり
 ました、先生にほろくそ言われて泣
 いたこともあります。しかしやり切
 った後には挑戦したかいがあつたと
 思えました。先生の驚いた顔は今で
 も忘れられません。本当にいろんな
 意味でやってやったぜと思いまし

た。それから私はいろんなことに
 挑戦しています。今現在一人暮らし
 に挑戦中ですし、今回この場所で皆
 さんの前で話をさせてもらっている
 のも自分なりに挑戦です。ラジオ
 CM制作にも挑戦していますし、部
 活でも台本を書くという挑戦もしま
 した。本日公開させてもらう「籠女」
 がその挑戦した作品になります。
 中岡さんのように大きなことに挑
 戦する必要はありません。小さい挑
 戦の積み重ねでいいんだと思います。
 「塵も積もれば山となる」です。小さ
 な挑戦を積み重ねていって、いつか
 おばあちゃんになったときに自分を
 振り返って頑張ったときに自分が
 懸命生きてこれたと思えればそれで
 いいんです。きっと私はこれからも
 「生きたいから」挑戦を続けると思
 います。そして自分の人生を「生きて
 いったらいいと思います。皆さんも
 自分の人生を「生き」ませんか？
 ご清聴ありがとうございます。



心理学科3年生
 司会 青木ともみさん



お昼ご飯の後は、松の
 枝や葉っぱ、南天
 の実、モールなど
 を使ってお花を生
 けました。
 子どもたちはと
 ても個性豊かでひ
 とりひとりの個性
 が作品に出ていま
 した。一緒に作っ

（心臓病児共同保育園）
「パンダ園のクリスマス会に参加して」

こども学科2年生 今北 遥子



てみましたが、
 とても子どもた
 ちにはかきなま
 せんでした。

お花を生けた
 後、梅花生が梅
 花女子大学にい
 のセラピードツ
 クの梅ちゃんと
 花ちゃんの話
 を少しして「もみ
 の木」を歌わせていただき、梅ちゃ
 んと花ちゃんのぬいぐるみを配りま
 した。子どもたちがとても嬉しそう
 にしていたので私もとても嬉しく思
 いました。

帰る前に礼拝堂を見学させていた
 だきました。梅花女子大学にも礼拝
 堂はありますが、また違った雰囲気
 でした。梅花女子大学よりも少し小
 さい感じでしたがとても綺麗でした。
 子どもたちとお話をしたり、少し
 ではあったのですが、遊んだりして
 とても楽しかったです。また機会が
 あれば、パンダ園の行事に参加させ
 ていただけたらいいなと思いました。



澤山保羅先生墓前祈祷会



学園創立138周年記念礼拝

学園創立138周年
記念礼拝及び
澤山保羅先生墓前祈祷会

「大同生命見学会」に参加して

梅花学園資料室 安田 行秀

2016年1月18日(月)に創立138周年記念礼拝及び澤山保羅先生墓前祈祷会が行われ、墓前祈祷会に参加した学園の教職員、同窓会の方々はその後企画部の手配により大同生命本社で催されている特別展示「大同生命の源流—加島屋と広岡浅子」を見学しました。ここではその展示のご紹介とともに、展示では触れられていない広岡浅子と梅花女学校の繋がりについて述べていただきます。広岡浅子はNHK連続テレビ小説「あさが来た」のヒロイン白岡あさのモデルで、梅花女学校第5代校長であった成瀬仁蔵の依頼により日本女子大学の設立を支援し発起人にもなった女性経営者です。大同生命本社は浅子が嫁いだ広岡家が経営する両替商加島屋があった場所で、四ツ橋筋を挟んだ向かい側には明治11(1878)年に梅花女学校が設立されました。現在の住友倶楽部の建物がある場所で、道路沿いに「梅花女学校発祥の地」という石碑があります。大同生命の展示では、その源流である加島屋の歴史を江戸時代の貨幣制度や米相場と関連づけて紹介されており、江戸時代の大阪が日本の経済の中心地であったことが



よく解りました。新撰組の近藤勇と土方歳三の直筆のサインの入った借用書の実物が展示されており、説明員の方がこの借用書がここに残っているということとは返済は行われなかったということですという話を興味深く聞きました。「九転十起生・広岡浅子」のコーナーでは、浅子の炭鉱事業への進出、加島銀行の設立、女子大学の開校、大同生命の創業といった明治時代の女性とは考えられない偉業が紹介されています。そのなかで浅子と成瀬仁蔵との繋がりをもう少し詳しく知ろうとすると、展示では触れられていない奈良県吉野の山林王土倉庄三郎を紹介しなければなりません。土倉は当時には珍しい開明的な考えの持ち主で、女性にも教育が必要という考えのもと、4人の娘を梅花女学校に入学させ100円(現在のおよそ200万円に相当)の

寄付をしています。その事がキリスト教信者以外の寄付を受けない自給学校を目指していた成瀬の主張に合わないということ、成瀬は女学校を退職してキリスト教伝道に専念します。新潟県への布教活動の後にアメリカに留学し、寄付金で運営されている大学を見て考えを入れ替え、帰国後女子大学校設立運動を始めた時に真っ先に土倉に支援を依頼に行きました。土倉は5000円(現在の約一億円の寄付とともに、加島銀行の大口預金者という立場から広岡浅子を紹介します。当時浅子は炭鉱事業を立て直すために大阪と福岡の間を行き来していましたが、女子高等教育の必要性を情熱を持って説く成瀬に大いに共感し設立支援を開始し、土倉と同額の5000円の寄付を行い出身である三井家の目白の土地を提供し日本女子大学校開校へ多大な貢献をします。晩年に大病を克服した浅子は神の恩寵を実感し、成瀬から梅花女学校第3代校長であった宮川経輝牧師を紹介され、基督教に深く傾倒し63才の時に日本基督教団大阪教会で洗礼を受け布教活動を始めます。女性の地位向上にも尽力しました。大正8(1919)年に亡くなるまでクリスチャンとして教えを広め、女性たちを支援し続けたのですが、そこには梅花女学校との繋がりによる神のお導きを感じずにはおられません。

宗教部一年の歩み

宗教部はチャペル・アワー(礼拝)を守ることに重点をおいた一年だった。チャペル・アワーは学園の建学の精神を伝える重要な役割を担っている。宗教部は、心に残るメッセージを伝えることに全力を注いだ。

4月 聖書を読み折る「オリーブのつどい」

4月14日(火)より、毎週講義期間中の火曜日に教職員用のための「オリーブのつどい」、水曜日は学生のための「オリーブのつどい」をお昼休みにチャペル北側控室で開催した。聖書を皆で輪読し、祈りの時間を持った。

6月 青梅の収穫と販売

今年も、学内で実った青梅を有志の教職員・学生ボランティアで収穫し販売した。毎年、5月末～6月中旬辺りの適当な時期に収穫し販売しているが、今年

は6月上旬に収穫した。売上金の3万8100円は、前期献金に充当。



8月 「止揚学園」訪問

今年、8月20日(木)に、教職員・学生の合計10名で訪問した。

10月 小梅祭「学生礼拝」・ガーデンングのつどいによるショッップ「オリーブガーデン」の開催
10月23日(金)午前11時より「学生礼拝」をチャペルで行った。お話は「チャレンジすることは生きること」と題して、情報メディアア学科2年生の金山紗耶さんにお話しして頂いた。司会は心理学科3年生の青木ともみさん。奏楽は水間泉先生。

10月22日(木)・23日(金)の2日間、学生会館2階でガーデンングのつどいによるショッップ「オリーブガーデン」を出店し、ポップリヤ手作りの葉書やキャンドル等を販売した。

11月 クリスマス・ツリー点灯式

11月26日(木)午後5時50分から6時5分迄、クリスマス・ツリー点灯式を澤山記念館正面玄関南側ヒマラヤ杉の下で行った。子ども学科4年生の坂元詩音さんのキーボードによる前奏でクリスマス・ツリー点灯式は始まった。心理学科2年生の中内優希さんの聖書朗読の後、宗教主事の高田太先生の「心を開こうクリスマス」と題してお話があった。そして高田総務部長に点灯して頂いた後、学生有志の聖歌隊の皆さんによる「もみの木」の合唱があった。

12月 大学 クリスマス礼拝

12月14日(月)午後1時より大学のクリスマス礼拝を講堂で行った。奏楽は水間泉先生。司会は高田太先生。キャンドル点灯は日本文化創造学科1年生の杉江里菜さん、看護学科1年生の三浦芽さん、山崎有華さん。聖書朗読は子ども学科1年生の磯崎鈴さん、木村友衣佳さん。梅花中学・高校卒業生の

植田加奈子先生と植田奈津子先生による独唱とピアノ伴奏があった後、日本基督教団泉北ニュータウン教会牧師の稲山聖修先生の「心を開こうクリスマス」と題した説教があった。

クリスマスライブニング2015の開催

12月19日(土)にクリスマスライブニング2015が開催された。午後2時20分から午後3時20分迄の間、チャペルで、クリスマス礼拝を開催した。奏楽は水間泉先生。早稲田摂陵高等学校ウィンドバンドのアンサンブル演奏の後、原忠和学園長の「心を開こうクリスマス」と題して奨励があった。午後4時45分から5時まで学生会館前で音と光のハーモニーを開催した。「心を開こうクリスマス」と題して高田太先生の奨励の後、早稲田摂陵高等学校ウィンドバンドの皆さんによる演奏があった。



パンダ園(心臓病児共同保育園)クリスマス会訪問

12月25日(金)午前9時40分から午後2時30分迄、京都市右京区にある心臓病児共同保育園パンダ園のクリスマス会に学生と教職員10名で訪問した。本学の学生・教職員は「もみの木」を皆で合唱した後に園児の皆さんにクリスマスプレゼントをお渡しした。

1月 創立138周年記念礼拝・澤山保羅先生墓前祈禱会・大同生命見学会
1月18日(月)午前10時から澤山記念館チャペルで創立138周年記念礼拝が開催された。本学園長の原忠和先生より「祈りの人 澤山保羅」と題してお話があった。出席者約200名。記念礼拝後、12時30分から大阪市設南墓地内で澤山保羅先生墓前祈禱会が行われた。「派遣のしるし」と題して本学宗教主事の高田太先生のお話の後、有志による祈禱があった。最後に、青木直人先生によるお墓の説明があった。出席者は44名。その後、教職員・同窓会の有志で大阪市西区江戸堀にある大同生命を訪問した。



3月 故 杉岡津岐子先生追悼記念式

3月5日(土)心理こども学部長の故杉岡津岐子先生追悼記念式が午後1時45分からチャペルで行われた。

卒業礼拝

大学の卒業礼拝を3月15日(火)午前9時15分より、講堂で開催する。奨励は日本基督教団大阪教会牧師の岡村恒先生。学生・教職員による聖歌隊「リトル ハーモニー・オリーブ」の皆さんによる合唱「旅立ちの日に」がある。

2015年(平成27年)度 献金及び献品報告

いつも宗教部の諸活動にご協力頂きましてありがとうございます。今年度は下記の東日本大震災の被災地・施設・団体に、集めた献金・献品を送付いたしました。ご協力いただきました皆様心より感謝し、ご報告申し上げます。

《献金送付先》

Table with 2 columns: 献金先 (Donor) and 金額 (Amount). Includes items like 東日本大震災の被災地 (15,000円), 止揚学園 (15,000円), etc.

Table with 2 columns: 献金先 (Donor) and 金額 (Amount). Includes items like 東日本大震災の被災地 (20,000円), 止揚学園 (20,000円), etc.

《献品》

【食料品】 救世軍希望館へ持参 ※炊き出し用として 米 5kg / 梅干 2ピン / 味付海苔 1ピン
【日用品&衣料品】 救世軍希望館へ持参 ※バザー用品として 帽子 1個 / 婦人靴 1足 / カパン 18個 / ブラウス 1着 / ポーチ 3個 / レターセット 1箱+9枚 / コースター 6枚入り 2箱 / 記念切手 8セット / 記念カード 1セット / 記念メダル 2セット / 小物 91個
日本キリスト教海外医療協力へ郵送 【海外国内切手】 約822g

2015年度



チャペル・アワー 感想文より

讃美の歌、こころの歌

川西合唱連盟理事長 堀田啓子先生 「むすんでひらいて」が讃美歌だと知って驚きました。私たちが小さい頃かかっていた音楽でも、歴史や成り立ちを調べてみると新たな発見があった面白く思いました。

愛の心とは……愛ある人になれ!

救世軍希望館館長 前田徳晴先生 最も大切なものは目に見えない、神の「愛」(アガペー)であり、そのアガペーは両親の愛に通じているということを学びました。両親の愛

はアガペーと同じく無償の愛であるということをお話を聞いて改めて感じました。 マラさんは、撃たれたのにも関わらず、自分の志を曲げずに子供たちに教育が必要であるということを発信し続けている。その勇氣に感銘を受けました。

M37 PHOTOGRAPHY 就職部長・学生支援グループマネージャー 西原 肇先生

愛を大切にしようと思いましたが、言い伝えていこうと思いましたが、100万分の1で出会えた隣人(友人たち)を大切にしていきたいと思える愛の一つだと思います。ステキな人を送るために周りや出合いを大切にしていきたいと思えました。保羅先生のおかげで私たちのこの場所があります。自己を制し、良き大人の女性になれるよう日々頑張りたいと思います。アーメン。

生かされることの感謝

京都市交響楽団ヴァイオリニスト、加藤 香先生

関西学院教会員 加藤 香先生

加藤先生が実際に過去に周りの大切な人々を亡くす体験をしたとおっしゃっていたのが印象

的でした。毎日同じように、当たり前のように日々を過ごせるのは本当に幸せなこととおっしゃっていましたが、本当にその通りだと深く心に刺さりました。

主は一人一人を愛される

本学非常勤講師 此枝洋子先生

他の人のことを考えて行動することは、私からその人たちに愛となるのだなと思いましたが、心静かにして奨励者の話に耳を傾ける。それが私から一緒にその話を聴いている。周りの人たちにへの愛になり、奨励者への礼儀となるというのを今日初めて実感しました。 神は一人一人を愛しており、正しい方向へ導いてくださる、というのを今日学びました。人と自分を比べず、いつも自分らしく生きていこうとお話を聴いて改めて思いました。

人間の非情

止揚学園リーダー 福井達雨先生・止揚シスターズ

今日歌った歌は、どれも胸にささる強いメッセージが届きました。 「子どもの笑顔を消さないで」——ミチヨちゃん が学校に行けなかった悔しさは、計り知れないものだったかもしれない。今でも、日本中、世界中には学校に行けない子ども達がたくさんいる。明るい未来をつくるためにも、子ども達に夢ある学校の存在を知ってほしい。冷酷な時代であるが、正義や愛を持って、現状に立ち向かう若者が、自分も含め、増えたいと思う。 それは、私達自身が、学校に行けることを喜びと感ずることから始まるのである。

歌く癒しと活力

テノール歌手 竹内直紀先生

こんなにも響くなんて、素晴らしいと感じました。そしてお響きの話が衝撃的で、歌は国境を超えるとはまさにこのことなのだと思えました。テノール歌手の声は初めて生で聴いたので、いい経験になりました。本当にマイクなしとは思えないくらい美しく響く声に感動しました。また聴きたいと思いました。カウンターテノールに更に鳥肌が立ちました。



平和をつくりだす

日本基督教団梅花教会牧師 後藤 聡先生

平和とは何かを深く考えさせられました。沖縄戦をテーマにした「ひめゆりの塔」を見たことがあるのですが、そのことを思い出しました。平和を実現する、ということの難しさや大切さがよく分かりました。

わたしたちの心に

日本基督教団浪花教会牧師 山口 恒先生

神様というものは、私達に自覚があってもなくとも、辛い時でも嬉しい時でもいつも私達の心に愛を注いでくださっているものなんです。この愛を糧に立ち直れる人もいるのでしょうか。いるのならそれはとても素晴らしいことなのではないでしょうか。前を向いて歩いていくのですから。

教会とオルガン

オルガニスト 所 俊夫先生

この礼拝を通して一番印象に残っているのがオルガンの音です。大学の入学式の際に聴いた時から凄く印象があったのですが、毎週礼拝の時間にもオルガンが聴けると喜んでいて驚かされています。個人的にオルガンの音が凄く好きで、神秘的な気持ちにさせてくれます。奨励という形でオルガンの素晴らしい演奏をたくさん聴けて嬉しかったし、とても心が落ち着きました。

傷を乗り越えて

日本基督教団磐上教会牧師 成田うし先生

「心の貧しい人」とは神を信頼する謙虚な人であると初めて知った。敵を許す、隣人を愛することを常に言うことは難しいが、頑張ってみようと思えます。 小・中・高と香里園の学校で育ったので、今日来てくださった方にとっても興味を湧きました。

こんな美しい朝に

朗読家 馬場精子先生

初めてこの奨励題を聴いた時、この詩人の苦しさ、孤独が分かってきた。しかし、この人の一生を聴いて、この人が受けてきた愛、感謝

が身に染みしました。思わず涙がこぼれそうなくらい、彼の思いが詩にこめられていました。

他人を隣人に、敵を友に

マルタには「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない」と言った意味を、山崎先生が「人はそれぞれ違うのだから」とお話ししていただいで、その通りだと思ひ、心に響きました。

イエスの言葉には力があります

日本基督教団大隈九條教会牧師 津田一夫先生
人々にはそれぞれの視点があり、その分、考え方や意見の違いが生じ、問題の捉え方が違ふけれど、異なる思想や意見を尊重し、そこに込められた祈りや心を感じとって継承していくことが大切なのだと思ひました。

人にしてもらいたいと思うことはあなたがたにも人にしなさい

本学園学園長 原 忠和先生
今現在あるスクール・モットーは、様々な人々が作りあげたものであり、私もそのような気持ちで大切にしていこうと思つた。自分が待っているような受け身になるのではなく、発信していけば、また違った楽しい生き方が見えるのだと感じた。

私教版 集め話 真理の証

本学教務部教務グループ職員

佐藤 昇先生
試験によって今の自分があるという言葉は深いと思ひました。苦難を「恵み」ととらえた田中とらさんや澤山保羅先生も素晴らしいと思ひました。メッセージの言葉を聴いてようやく今日の聖書の意味が少し分かつたような気がしました。

授けられた生命に秘められたメッセージ

パンダ園保育士 佐原良子先生

「かみさまのおてつだい」の読み聞かせを聞いて、先生は素人が描いた絵本とおっしゃっていましたが、病気の子どもを勇気づけた元気づけたりする素晴らしい作品だと思ひました。

小さい子は病気になるたら、なんで自分が病気になるらないういけないういけなうと思つたことが多いと思つた。病気になるらないういけなうと思つた。頼まれてるんだと思えるんじゃないかなと思つた。

満4歳の戦争の思い出

日本基督教団土師教会牧師 森田 進先生
大学を3つも卒業されていることに驚いた。4歳で戦争を体験したことほど辛くて一生忘れられないなうと思つた。過酷で悲惨だと思つた。やっぱりこんな戦争はやってはいけない。誰も幸せな気持ちになれない行為が戦争だと思つた。

好きなの人のせいでよく泣いている

日本基督教団千里聖愛教会牧師 川江友二先生

何でも相談できる先生がいらつしやつたことをうらやましく思ひました。しかし、信頼していただけにおくくなりになったこととはとても辛かつたと思ひます。人を好きになると、失つたときに悲しい思ひをするので人と関わることもそのものが億劫になつたりします。悲しみから立ち直るには時間もかかりますし、かといつて一人では生きていけません。人間は難しくできてるのだと思ひます。

不器用ですから

日本基督教団扇町教会牧師 山下壮起先生

人が強がつたりかつこつける人は不安や怖さをかかして居る。という言葉は私にとって大切な言葉になり改めて気づきがありました。辛いつき共に歩いてくれる人がいる幸せを感じました。周りの人が不器用な生き方をしているとき、その辛さを共にのりこえられたらいいと思ひます。

あなたは尊い

日本基督教団大阪教会牧師 岡村 恒先生

目に見えるもの(衣服・食事・飲料)は一時は満足できても消えてしまふ。しかし、目に見えないもの、ばかり追いかけるのではなく目には見えないもの(神様を大切に)と奨励者である岡村先生がおっしゃつた時、生きるためには目に見えないものはとても大切だけれど、

もつと大切なものは何かというのを考えないといけなうと思ひました。

情けない

同志社国際中学校・高等学校 チャブレン 山本真司先生

目の前のできることは1つずつしていきたいと思つた。1日1善を目指したいと思つた。しなくてする後悔よりもして後悔をしたい。周りを見て行動する、いつもより細かいことに気付けると思つた。

讚美の歌声高らかに

川西合唱連盟理事長 堀田啓子先生

私が知らない讚美歌ばかりで、今回のチャペル・アワーに出席することによって讚美歌に関する知識が増えました。個人的に「いま来りませ」という讚美歌が良いメロディーだと感じました。

愛あるとこに神あり

山下バプテスト教会員 栗山明彦先生

牧師さんの肩かけや台の布が紫色になつたので授業で習った通りだと思ひました。G線上のエリアが好きな曲だったので聴くことができて良かったです。いつもこの曲を聴くたびに泣きそうになります。アベ・マリアも好きな曲で嬉しかつたです。もつと色々な演奏も聴いてみたいと思ひました。

子ども達に寄り添う

児童養護施設レバノンホーム施設長 栗本一美先生

「児童養護施設」が元は、孤児院。だといふ事をはじめて知りました。元がそうだから、親がいない子が多く集うのかと思ひます。親がいない方が多いと聞きそにも驚きました。親がおられないのかと思つていたので。少子化が問題となつている現在、それなのに施設が増えるため子どもが増え、施設にいる事は悪くはないのですが、少子化の世の中どうしたら普通に生活することが出来るのか。考えないといけなう課題だと思ひます。施設に来る子で、虐待が理由の時、4パターンあるのは授業で聞いたことがありますが、実際に写真や体験談を聞くと

なぜ?と首をかしげたくなる事が多く悲しい現状だと思ひました。

心を開こうクリスマス

元本学宗教主事、日本基督教団泉北二丁目タウン教会牧師、こひつじ保育園理事長 稲山聖修先生

クリスマスの歌がすごく良かったです。来年は劇を見たいと思ひました。クリスマスは初めてだったのですがキリスト教の人は毎年こんな素敵な事をしているのはすごいと思ひました。奨励のお話も困っている人に目をかける良い話で感動しました。

死から命へ

本学日本文化創造学科教授 米川明彦先生

今日の米川先生のお話を聴き、「クリスマス」について改めて考えさせられた部分がたくさんあつたように感じました。「命」の大切さについて考え直さないといいなうと思ひました。今年のチャペル・アワー、学んだことがたくさんありました。来年もためになる事をたくさん学べたらと思ひます。

心でみつめる

日本基督教団摂津富田教会牧師 大谷隆夫先生

私の周りでなかなか「野宿」をしている人を見ないので、お話を聴いていてもしつくりとはあまりこなかつたのですが、しかし、この小さな大阪で多い時1万人以上もいたという事に驚きました。だからこそ野宿の方々の事をしつかり支援しないといいなうと思ひました。星の王子様様の時に、心でみる昔コミュニケーションを取れなかつた頃母に同じような事を聞いたことも思ひ出しました。

出会い

本学学長・宗教部長 長澤修一先生

「出会い」というのは突然やつてくるものがあると同時に、行動しないことには「出えない」。奇跡であると思つた。ノヴァーデスの神秘体験は彼の人生をよい方向へと導きだしたのではないかと思ひます。「出会い」は偶然ではなく、そして、人々だけではないと改めて思ひ至りました。

2015(平成27)年度 チャペル・アワー講師一覧

(敬称略)

月	日	奨励題	奨励者
4	13	チャペル・アワーによろこそ!	高田 太
	20	讃美の歌、こころの歌	堀田 啓子
	27	愛の心とは…愛ある人になれ!	前田 徳晴
5	11	M37 PHOTOGRAPHY	西原 肇
	18	生かされることの感謝 ～音楽からの導き	加藤 香
	25	主は一人一人を愛される	此枝 洋子
6	1	人間の非情	福井 達雨 止揚シスターズ
	8	歌～癒しと活力	竹内 直紀
	15	平和をつくりだす	後藤 聡
	22	わたしたちの心に	山口 恒
	29	教会とオルガン	所 俊夫
7	6	傷を乗り越えて	成田いうし
	13	こんな美しい朝に ～瞬きの詩人 水野源三の世界～	馬場 精子
	20	他人を隣人に、敵を友に	山崎 道子
	27	イエスの言葉には力があります	津田 一夫

月	日	奨励題	奨励者
9	21	人にしてもらいたいと思うことは あなたがたも人にしなさい	原 忠和
	26	私家版 集め話 真理の証	佐藤 昇
	28	授けられた生命に秘められた メッセージ	佐原 良子
10	5	満4歳の戦争の思い出	森田 進
	19	好きな人のせいでよく泣いている	川江 友二
	26	不器用ですから	山下 壮起
11	2	あなたは尊い	岡村 恒
	9	情けない	山本 真司
	16	讃美の歌声高らかに～アドヴェント、 クリスマスの讃美歌を歌う～	堀田 啓子
	30	愛あるところに神あり ～靴屋のマルチン～	栗山 明弓
12	7	子ども達に寄り添う	栗本 一美
	14	心を開こうクリスマス	稲山 聖修
	21	死から命へ	米川 明彦
	24	心でみつめる	大谷 隆夫
1	25	出合い	長澤 修一

宗教部編集後記

2015年度も無事に「チャペル・ニュース」第12号を発行できますことを心より感謝申しあげます。

4月には高田太先生を新たな宗教主事としてお迎えし、歩みを共にしています。たくさんの方のサポートを持たれた先生です。どうぞよろしくお願ひ申しあげます。

静かに茨木ガーデンキャンパスの梅が咲き始める頃、「チャペル・ニュース」第12号を編集しておりますと1月30日に梅花学園元理事長、学園長の森脇忠雄先生が、2月4日には元宗教部長をされていた石川富士夫先生が逝去されたお知らせが宗教部に入りました。お二人はこの世でキリストを証され、この世の業を終えて天に帰られました。石川先生の前夜式とお葬式は日本基督教団茨木教会で2月5日、6日に行われました。石川先生の愛唱聖句はマタイによる福音書7章7～12節でした。梅花学園創立120周年の時にスクール・モットーを募集したところ石川先生のご息女、もよ子様のお誘いにより澤山保羅先生の愛唱聖句でもあるマタイによる福音書7章12節の聖書の御言葉が選ばれました。あれから早いもので18年の月日が流れ、本学のスクール・モットーの由来をご存じの教職員もだんだんと少なくなつてまいりました。

森脇忠雄先生には梅花幼稚園創立70周年記念誌編集の時にご指導頂きました。とてもにこやかで優しい笑顔の先生でした。森脇先生の記念会は澤山保羅先生が創立された日本基督教団天満教会で4月3日(日)午後2時より行われます。

森脇先生、石川先生のお働きを想起しつつ、深く感謝の念に満たされています。お二人が示してくださった聖書の御言葉を大切に宗教部一同、心を合わせ、祈りつつこれからも歩んでまいりたいと思います。(〇)

神は、主を復活させ、また、その力によってわたしたちをも復活させてくださいます。

(コリントの信徒への手紙一 6章12節)

